

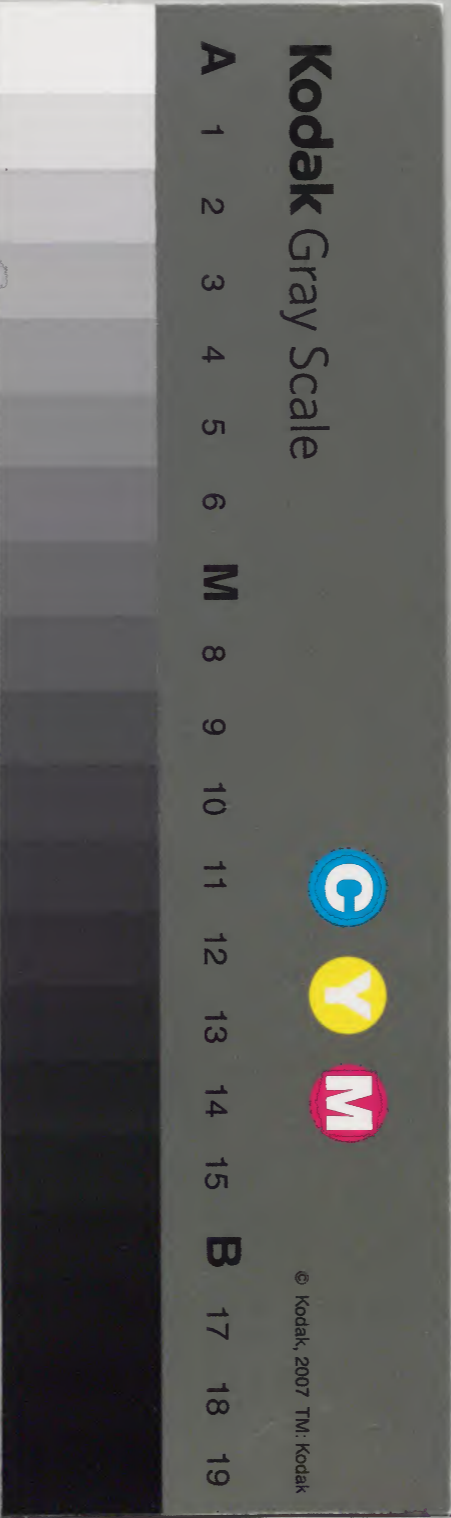
和福語

秋子部下十

		七	和
	六	六	書
	一	一	門
一	七	一	
〇	八	一	
冊	架	函	類

庫	文	閣	內
元		七	和
〇		六	書
七	一	一	
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 7611
冊數	10 (10)
函號	190 108



教文
庫部

同

倭論語卷第十目錄

秋戌部下

園朝

良兼

增基

完助

顯子

兼憲

守禪

經善

日
時
同
香

高
政
庫
官

藤

清

禪正

慈基

兼栗

慈源

憲守

經耀

傷助

學忠

和論語卷第十

尊覺

忠秉

性字

良鎮

隆壽

公順

寬巖

俊清

道真

教玄

任意

義壽

祿巖

義賢

隆憲

宗助

公壽

隆秀

良譽

兼基

勝國

道悟

超譽

兼覺

尋國

秀馨

禪意

真覺

策友

道喜

港國

澄修

真盛

寬譽

政玄

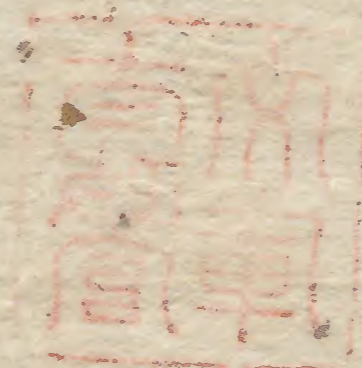
隆惠

公乾

真玄

天覺

存海



教玄

道真

俊清

寬巖

公順

隆壽

良鎮

性字

忠秉

尊覺

港國

澄修

真盛

寬譽

政玄

隆惠

公乾

真玄

天覺

存海

良愨

尊賀 登修下

良愨 尊賀 登修下

堯然

道子 同上

堯然 道子 同上

倭論語卷第十

秋成部下

圓朝曰生死といふ事無念之公乃時かづき

と云ふことありてあきらむる事あり

らん是一大事なり要なり学んば思ひく傳授

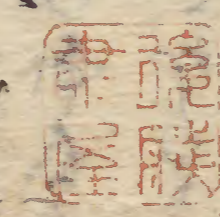
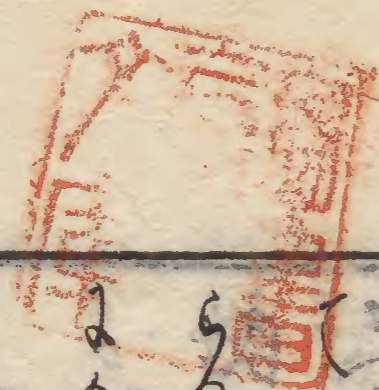
よくまゝおこなふまゝをぬ

名越遠江宗平朝時三世平宗教男也王

作撰法下諸道通達之人也号大通院

禪正曰凡学又乃近ハ日教にありて四季乃

うけつらうりよる来のみとわね系此あり



とゆ。そのよにしろん。まるとまはてそのまら
りみ祈のあつとまらに及がしとらみ法
一始のて悪あまらうなりと

伊勢肥前宇平威富五男也一生不犯大藏經

二度色身立空自然良智人

良兼曰琥珀りつ及よ。朽多る及すも良
及らりと吸ふ先たまりりそらり及人
あく邪曲なる人よあらうなりと
て可するなりあうとさなりり及あさ
るなりと大道とをゆゆのせよさなり

從一位関白兼嗣云二男也号一宗院

慈基曰佛者乃儒乃儒乃佛乃儒乃佛乃
異端也と云人とあるもよ仏とあるも
儒者にあつたは二なりととあうなり
なり。そらりなりと。言はれりなり
をあつたは外あまらりなり

関白兼平云六男也延曆寺法勢大僧正号

止観院執行生身明王并見傳密下
増基曰学又乃るあつたは不量なりと
と。毎日その書よらりひぬはなり

てふら孫らもゆかすありありあるがふり
こあるま又日十日さくハ大さくくちらけいさ
てやうの中乃さまも能あらゆきものなり智
息あつてもそも一日二日なとみきさるんり
いさ甲斐ありけいおあうあしてははひる
そのをさき一賢あしてけいささるるもの
あささ。可乃乃さき。あささ。

関白基忠公八男也三井寺誓大僧正實ね

院

等奘曰人の世をのこらひそのまが音をほら

人乃音を中くを是きりある人の世を
穿てき是さく解り人若愚成捨人乃
音ととり人の為より。弘力と後三はめ
き。その世よりまきて善子ある人よは君
子成那ひ下は賢人成あひまな。向は人の人
く。世もながる人よは。

伊勢因幡守平貞長五男也六角大膳大主

源高頼朝臣猶子江州禪光寺同山

密助曰諫言く人れ。君は父子夫婦明
友兄弟乃是をそと。若とひる人賢か

神なりとて。男いへあやうか。有る。口は味を
あの人。のうらさ。どのさ。ゆるゆる。せしひら
ら。あしぬら。のま。と。あ。く。い。聖人。あ
みる。と。恐。まぬ。と。か。あ。し。な。れ

菅原淳仲朝臣。勇也。横川長吏。竹林房

回峯三千日。孫生身不動。傳密下。

顯尋曰。世にござて。大勇あ。これ。法を。あ
る。く。智。識。あ。ら。う。と。せ。つ。つ。あ。り。し。う。あ。り
つ。て。あ。ら。う。と。せ。あ。り。世。に。遵。法。す。る。道。あ。ら。う。時
か。ら。う。い。志。を。大。勇。持。志。出。る。あ。ら。う。い。み。ご。う

よ。け。と。あ。す。と。ま。る。い。つ。と。あ。ら。う。て。は。人。あ
なり。人。の。あ。と。ぬ。あ。は。は。し。り。の。治。せ。う。も
は。聖。なる。時。り。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う

左少將藤原氏。孫朝臣。三男也。顯密通達人也

憲守曰。君。聖。く。教。も。信。人。い。と。孫。と。一。忍。の。う
ち。あ。と。孫。の。程。あ。ら。う。て。あ。さ。ま。い。に。人。の
う。ら。さ。信。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う
す。の。い。何。れ。と。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う
みる。氏。を。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う
所。を。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う

智ハクシム男女のまじりてゆくりと弁三ノ
奇縁成リ之賊室にみら負窮と名ト見
富貴と名ハシトシナクシテ其ノすしみる
おとまりしきまのハト付の若字傍成下

横河長史権大僧都法平憲基男也号三
光院大僧都法平

兼憲曰おろろ女ものハシクシテ後らんと
笑く此縁成リしガとくくナリあるもの
家業をあるはあましくは先をたす
天余の賦ありてはくいらく人なる

又戒カシムと本あるハ憲生こよ生あるハ念ある
まして是難人なるおろろ女ものハシクシテ
さあろろしして身とあやしはくナリ世と
知ハシムるハ其を知らしめりおろろ女ものハシクシテ

山徒権大僧正二位法平憲玄男也大僧都法
平大樂院

經耀曰人無念なる時ハ正也。有念なる時ハ邪也。
正邪ハ人の心也。正なる心ハ人の好む
るら如かり。正なる人ハ其の正なる
おもらるハ其の邪ハ面白くする人なる

かこみく^{こころ}ふ^{こころ}い^{こころ}じ^{こころ}う^{こころ}て^{こころ}人^{こころ}の^{こころ}う^{こころ}あ^{こころ}る^{こころ}
故^{こころ}なり^{こころ}面^{こころ}む^{こころ}事^{こころ}を^{こころ}さ^{こころ}し^{こころ}と^{こころ}た^{こころ}く^{こころ}も^{こころ}あ^{こころ}る^{こころ}言^{こころ}ひ^{こころ}公^{こころ}心^{こころ}
あ^{こころ}る^{こころ}の^{こころ}う^{こころ}あ^{こころ}る^{こころ}す^{こころ}も^{こころ}天^{こころ}下^{こころ}力^{こころ}を^{こころ}う^{こころ}く^{こころ}や^{こころ}る^{こころ}人^{こころ}
なる^{こころ}乎^{こころ}

権大納言藤原経長の子也三井大僧都 顯

密兼学一生不対不犯

仁和寺の守祿法^{あま}平^{せん}を^やら^めん^子を^よら^せら^まし^た人^い毎^んり^ん
か^よら^ぬり^ぬり^のか^き進^ハあ^らむ^むじ^うり^きま^めの^き
解^と志^んて^可乃^事を^{もの}じ^まり^きなり^根
根^事を^され^ん

良^し知^る明^かめ^てや^まり^安時^可の^事自^在なり^{なり}
け^しり^く并^ハま^さる^法を^時の^智識^とも^えん^一
一^案の^事は^能公^のぬ^る傷^を人^を恨^とわ^るを^し
ひ^めく^ある^法え^んハ^何あ^らむ^日出^乃字^又を^ハえ^はら^る
事^をや^し所^腹を^く傳^る出^家と^なり^ぬる^法り^は
は^あら^むし^とや^め可^を欲^し無^慈め^く佛^のを^る
う^こか^らま^の一^きに^法道^のま^とす^り并^ハく^ま
そ^おの^まは^まさ^らう^りの^をあ^らひ^にあ^らむ^る
め^まひ^乃は^月日^はお^らな^るを^みく^ある^も
ま^{なり}あ^らむ^と時^の信^人を^後生^めく^おも^ひ

慈愍を正直も出家も亦まゝありおろなり。うら
う。わらて母成乃るやうにほりてゆらん僧ハ大
なる罪人なり地獄よるあつてさきのハと時此僧
まりんを人の心みらるるトおるるや阿さま
あは臨終多にゆらん

中納言藤原為経の子也年三す来定来
来之安居團之人

東大寺乃湯助曰世は多に父去とひらく字を
らんより佛の字ひし中より時ひぬる
を一つは軽しゆるし智恵を也を道徳にらん

大かた可乃事とわうく知事とを始終とハ
あゝぬわらなり。廣学子なるハいうるあや
ひく一人のつり屋うにあらん佛一代乃
説法と家ひかふるをも一と明にせんりそ
すことやんとも。実中りあらん。色廣学
より。まのハ。智恵よりつらく物も然てら
志ぬる方ハかすらものなり

権中納言俊實卿子也十三歳之時年
殊而得自然智
奥福寺乃經言信正ハ七才乃時より親為師と

中納言

毎日まいにちのりて十二じふに支しりて毎日一卷いっせんつかききりひ
 廿八にじふはちの三月十八にじふはち日の言ことばに江列かうりゆう竹生たけなま徳とくありて卯三うし
 人ひと事ことりていひならハおととの廿二にじふに年としのり信しん心こころ
 かり事こと徳とく天てん善ぜん林りんよりい給たまひくどり給たまり
 おわく諸もろ天てん集あつり給たまりうおとよと心こころさちひま
 い路ぢ事ことより一ひととなりてやくと心こころむ経けい養ようい
 う能よ中ちゆうとやとおもひらうと心こころむ行ぎやう海かい鏡きやうと
 志し好こうくろるるいはいあむじと心こころむ行ぎやう生せい徳とくよ
 主しゆつとぬまらく乃な佛ぶつ并へい苦く經きやう養ようよむい
 まひて年とし事ことのいとも候あきうらて三さん子し家け乃なり

籠かごをのりて衣い生せいおとろ書ま字じ讀よみ誦じゆよりりて
 とまかりりの十三じふさん万まん七しちの余あま人ひとかりく教きやう然ぜんく
 たまに傷きずよかのみくをらんをうらと心こころむと心こころむ
 とて如意い痛いた親しん着しやく乃な友とも共ども洲しゆうもより室むろ珠しゆを
 あそび給たまりてさかり是こゝろらりのり八はち世せ家けの負おん翁うい
 とて心こころけりて其その社しゃ佛ぶつ塔たつ乃な放はなきうらを造ぞう塔たつせ
 らまゆ中ちゆう八はち百ひやく六む十三じふさん万まんなりいよはらありしれ
 んぐれめてそれ感かん慈じとら事ことなり

正二せいじ位ゐ中ちゆう代だい言ごん藤とう原げん經きやう俊しゆん五ご男なん也なり真ま福ふく寺じ

別べつ當たう

東大寺乃忠信目佛よりしりしてありてこと
乃よりハ徳感慈ありおま事なきて公乃を
あやしめおまひに落すうおらごもてみご
る靴の佛心のとやして一かたりし

正二位中納言藤原冬房三男也拜弥陀来迎
真福寺を覺曰法遍執あつ偽ハ魔界入り入
まうもひたり此うもとらる偽あまのりた
魔界入り力するものハ多して佛界に入ものハ少
一魔佛一如乃親法氏あひものハ大方ハ魔の
よるなり純なり魔のらとて人信人是とらやまひ

用て世のそとをわとらあり魔界入のそとら
仏界に入なんすうりの氏ハ貪をけりて人是と目
ひもよひあく魔界に入もの多し女仏をゆえ
そ一衣とをぬすすて。おんけけらて入事なわ
おらうさ事あつこと。おん一乃此事を後して
ハ。仏界とゆふ事かごる也

関白忠教三男也号龍花院
任意曰破戒なりとも慈悲ありて人らうらう
女仏とゆふなりお戒西も慈悲あまさん
仏果とゆふ事うらう慈悲乃公は佛正徳公は

かゝる事ごとくさゆへて。生類をあれをまろくを
みりむをなぐ。衣を深敷とるもそる海をりて
欲心うく右の妻。一は偽の意とあらし。親と
ゆりのよりおのつとぬり

九条園白經教云八男也二号院住持廿二歳之時
中拜普賢人也

延暦寺忠康曰仏のたよ賢くして世智うそは
乃ち柳なり仏のたよりとありて世智に賢くは
の飛なり此飛とる人と耐はも道なり

園白政忠云男也大僧正号昆沙門堂

義孝曰知法之人乃能入海入法入法
の出世をまるとおの務系法云よ行約下しとを
もふなり。よふおとされい下おの自在なるぬ
なり佛少色なりとゆるといふ。是輪回なり

慈眼院園白政基云三男東大寺法勢大僧正
又号一宝院

大覚寺性守曰佛よからんとおもあるうしはあ
仏のそり今あつらうとておもある。可なり
と又とあひらうとおもなり。あんとすまは
悪しすまはるうりハ物あつらひあつらふハ

物云々

祐嚴曰天下の一言小治り又一言の夜る佛也又一
言の佛果と成り一言の地獄の海けり佛智人
俗出るといふ言の人の好むていふよの悪人の好むと
あつて公の言の男の悪なり言悪まの一人も
なり公の主人なり男の悪なり言の悪なり一人も
言の公の主人なり男の悪なり言の悪なり一人も
言の公の主人なり男の悪なり言の悪なり一人も
言の公の主人なり男の悪なり言の悪なり一人も

一条閑白經副の男也糸南朝出家父不和

号随心悦

良鎮傳正曰世の人の業乃多ト出家の信家
の業を以て信人の経のみ法にありて出家と
いふは我のようさる人いふる也他人の業は
こからんや在る人いふる是を以て信人の業に
おもふるさるなり

祐嚴之中号号珠院傳正世典一部一生讀誦

也文珠名場來修毎夜也

義賢曰人の多く経を以てつうにつあつてつう

持つてつうにつあつてつうにつあつてつう

如くぞがくる所よりゆつとん入わくの家仏のち
 うらかりそそ海海一結ひぬる長く親き来
 了結ひして五結人のをう結あすよりとハ母
 室は入くどりんかよの半とハ入る一は室
 ひと意く長をよあまる果して世の長八寸
 うら乃親き乃金色ありといわゆるのこくみ
 えとけりる佛壇乃よおろしきるそのま像あ
 せりるなり半けりるわし義賢此知かれとお
 ちんは半とハ毎交夏中ふつあましく勢結ひ
 うみいんと云言もははり守結ひくうと世の

結き仰つあらし進んれとを義賢うつく結業さう

一也なりづらうをわあうん人そやあひる

是利左兵衛持大納言源満詮の三男也

号三宝院八僧正准三宮

横河隆喜曰し時たよ五なりとの多を中ハ漢家
 本朝乃書として何よふ勤るなり事となり人乃
 佛の内院あらしぬそわらうな道可法皆是心
 来のを下ハなる事とあらししその秘神乃格よ
 うつとあ天下は乃ひをうけは成の道とつるを
 て結らんハを下り物方中乃是事一なり

從二位隆政御五男也号横河大信正又号

隆憲曰智藏ハ智藏より進出志ハ以吟の道

從二位權大納言藤原隆遠御二男也号光

明院僧正諸道通達之人也

云順曰人志をくおろく女志の世に多し同は信正
その志を女志を失はれもつりまはなりは是
しとつひ乃門信は是禍乃根をたしつり

在人の世の事かごとく世の多岐なりを此志に
候と志進ハありまらなく安かたりまらん物とや

九条金頂寺別當禪觀二男也寺人号謙德
律師

醍醐寺宗助信正曰此は四重五送り也十は
信の太飛とみくかりて後をすまらん中野河内

玉乃諸司ありし人の子女ありてまけり同姓
の人れをまらるる名あり及く此人を世にたるとん

とせし時白雲山の信ありとつりまらるる
てたりつりまらるる信をわけててをの進出志の志

こそあつて先人のあまげをいひあすむわとあ
 さましく是のゆゑに又親の尾乃傳と母にまゝに
 山寺へまゐりてならに親の尾の傳と母の傳とを
 世よりのの悪む親を絶くすの事母よりに
 人よりのつらきいふ心とまじりては傳と母の
 りも恥ぢて絶たるゝぬ事とをいひてあつと
 海乃人を絶むがくつひめあつては中て。是よ海乃
 ちつと悪人又ありとこおもひをまゝ山の傳と
 尾の傳とを幸はしくくりぬくはつとつらき
 せつと絶くせむのいふなりとて又是の事なり

り悪人なりとそむくそれより後ならんぬいそく
 ひの出家乃を後乃世も多かりんそそそそこれ出
 家の出家もあつとせりいひまゝあつと物あり

中御門中納言藤原宗重の弟也是は理性院
 覺叢曰るんそそ人とあつとつひにそそそ
 どもを悟性つとあつと人の出家もあつと
 なり貴人のあつとあつとあつとあつとあつと
 ともそそそあつとあつとあつとあつとあつと
 さつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 みるんとは覺の事

園中納言基隆の四男也延暦寺修部正一藏之
時化得自然智人也

公嘗曰人貪乃世の徳世のよき徳也富貴を
いせの業よくらん天賦の才をいせ下位
おしめず徳のあらんをいせ徳人のい
まの世にすけの徳をいせ徳人のい
らやいせいせの徳をいせ徳人のい
めくをいせいせの徳をいせ徳人のい

内山僧正右大臣房の二男也一生貪友不
律貴人也俗号地藏菩薩

後清法中曰公家以乃極ありを友のふかりと
とも世よみとわかんらんにわひらむ世に
のふ家うを不礼なり武家よ乃極あり法を
からん一友位とあらん出家よとかなる大徳の
まうてたく一一人の徳をかうるべ三家の極
ふを常九と有り時何を平略をいせ

従一位大納言藤原資總の四男也贈大僧正号
佛地院大藏兩度一生不犯

真福寺別當隆秀僧正乃いづく何事しその
人のふとふとふとさゆへなめり徳のぬ

うつを物かたりはすり物き世よとくく知つる事と
てをいふまごふとあふぬ世あまのくがら人のみ
よのよの世の経あつて道ぬまの城をけりて物
あつらふや

道真曰長冠西堂の号ハ友徳ハあつて松家ハ
て乃稱号するに法燈にまゝもてつらうまふ
らまを世に申こと時の出家ハ長冠とをいふ
つら身になまは四位ハ位乃後上人まてを
そのまふ下と海のものともみらうそくく
俗も出家をもとけ位に懸してそくくいふこと

人あらぬ人あらぬ世とわいもんハ嘆しといふん
懸してまふ人鏡論よるそりり
語つる世のありと海なり

因白房嗣ハ二男大僧正准三宮聖護院新
熊野檢校

良言曰人の公をる時と可乃申公の内なり
り物多のハ災をま秘く和なりか家かゆふ公ハ
あつて入定のもすつてハ言ひて西く業
あつてまやりかてあつてまのよとい
近承因白改家ハ二男一宗院大僧正法務

延暦寺慈基僧正曰。笑と云ふは。かとの
 人なる大才と。時の賢人なり。若くは。嫁し。て。あのみ
 こと。いふものあらん。おろし。け。を。て。み。ま。は。る。
 り。つ。り。賢。人。か。り。と。云。も。笑。成。が。あ。く
 ろ。も。の。い。て。ぬ。り。さ。は。な。さ。る。の。た。り。
 類。と。怒。り。の。ぬ。む。可。なり。笑。い。あ。る。あ。る。い。に
 あ。る。は。さ。ら。い。と。い。は。ま。る。の。い。く。い。あ。る。を
 お。の。ろ。ろ。の。と。い。ひ。

傳者系

真福寺教玄僧正曰。ことさるるあまの唯おつと乃

憂と云ふ。目のさめあまが。あ。く。か。ら。ん。と。す。ま
 り。言。系。的。お。の。違。乃。と。い。ふ。あ。り。て。明。歷
 然。あり。ま。る。代。と。時。乃。人。の。ま。は。る。と。い。ふ。と。今
 ち。や。い。欠。あ。る。人。み。と。拙。なり。と。お。も。う。い。あ。る。い。よ
 う。い。

用白大政大臣号平云二男也。号一兼院。法務
 別當

仁和寺法中兼基曰。比治在。家。出。家。符。祿。と。い。ふ。人
 人。と。い。つ。ふ。い。つ。乃。遠。恨。と。い。ふ。人。を。欲。う。と。い。ふ。人
 あ。ぬ。と。い。ふ。を。皆。は。さ。り。あ。や。ま。り。る。平。か。つ。ま。

和言言卷十

そくしきよのつなまをいへ根乃出本ん
 かくて後人よ及んてしすなり口切の
 大恩と考へん

正二位大納言藤原基副の三男也号仁和功

徳院

大納言藤原基副の三男也号仁和功

湛園法下曰。沙門ありもの云あり。きり多中よ
 中一は男女。中二は利欲。中三は物欲。中四は無
 為慾。中五は馬の音。中六は鳥の音。中七は
 人。中八は人。中九は人。中十は人。中十一は人。中十二は人。中十三は人。中十四は人。中十五は人。中十六は人。中十七は人。中十八は人。中十九は人。中二十は人。中二十一は人。中二十二は人。中二十三は人。中二十四は人。中二十五は人。中二十六は人。中二十七は人。中二十八は人。中二十九は人。中三十は人。中三十一は人。中三十二は人。中三十三は人。中三十四は人。中三十五は人。中三十六は人。中三十七は人。中三十八は人。中三十九は人。中四十は人。中四十一は人。中四十二は人。中四十三は人。中四十四は人。中四十五は人。中四十六は人。中四十七は人。中四十八は人。中四十九は人。中五十は人。中五十一は人。中五十二は人。中五十三は人。中五十四は人。中五十五は人。中五十六は人。中五十七は人。中五十八は人。中五十九は人。中六十は人。中六十一は人。中六十二は人。中六十三は人。中六十四は人。中六十五は人。中六十六は人。中六十七は人。中六十八は人。中六十九は人。中七十は人。中七十一は人。中七十二は人。中七十三は人。中七十四は人。中七十五は人。中七十六は人。中七十七は人。中七十八は人。中七十九は人。中八十は人。中八十一は人。中八十二は人。中八十三は人。中八十四は人。中八十五は人。中八十六は人。中八十七は人。中八十八は人。中八十九は人。中九十は人。中九十一は人。中九十二は人。中九十三は人。中九十四は人。中九十五は人。中九十六は人。中九十七は人。中九十八は人。中九十九は人。中百は人。

て悪んなり。中八は仏教の内院。中九のの。俗人
 中九。中九は物欲の。中十は法。中十一は。中十二は。中十三は。中十四は。中十五は。中十六は。中十七は。中十八は。中十九は。中二十は。中二十一は。中二十二は。中二十三は。中二十四は。中二十五は。中二十六は。中二十七は。中二十八は。中二十九は。中三十は。中三十一は。中三十二は。中三十三は。中三十四は。中三十五は。中三十六は。中三十七は。中三十八は。中三十九は。中四十は。中四十一は。中四十二は。中四十三は。中四十四は。中四十五は。中四十六は。中四十七は。中四十八は。中四十九は。中五十は。中五十一は。中五十二は。中五十三は。中五十四は。中五十五は。中五十六は。中五十七は。中五十八は。中五十九は。中六十は。中六十一は。中六十二は。中六十三は。中六十四は。中六十五は。中六十六は。中六十七は。中六十八は。中六十九は。中七十は。中七十一は。中七十二は。中七十三は。中七十四は。中七十五は。中七十六は。中七十七は。中七十八は。中七十九は。中八十は。中八十一は。中八十二は。中八十三は。中八十四は。中八十五は。中八十六は。中八十七は。中八十八は。中八十九は。中九十は。中九十一は。中九十二は。中九十三は。中九十四は。中九十五は。中九十六は。中九十七は。中九十八は。中九十九は。中百は。

和言言卷十

和言言卷十

はりしきとては若きなる僧に於ては未とみるに
て寺の風俗のいさくはしくなり好まのなり
法基なるの信縁とのいさくぬまこく者かな
まはと時の傍よりとていさく

正二位大納言藤原基継三男大僧都号吉井

仁和寺律師澄俊一生不犯めくおらけり或時お
色の方女の事ありとの代をゆひく此の事なり
まはらまうりおの事とす切くはてら通なることあり
高野大師夢中よりゆきたる来世よありけり大なる
なりたて新あをいさくかきりけり

あさるんとていさくとていさくとあぬはの右乃
手なりあきくありぬまらまぬやぬやぬ
てらうとていさくと物手なりうはまうとていさくとは各
別ありて大師の筆録りせりあつあなうたを
みまらあまうと物うとらまらあま大師の筆もよ
そまらす是にうてみあとのいさくはり一千巻
のいさくと書て高野山よあまらうかり一巻の戒
あさしきあまのいさくとたあなうりもあわ
りあそ

東大寺宗忠曰人毎は法のよ佛号を唱くも

期は仙号と唱へしは一事のみならず其後なり是なり
 儀のたゞしきなり又なるも仙号ともうの
 るねとも名期仙号とも唱へしは一事のみならず
 ありけりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 三井寺の聖法宗白雲の如く印と美ぬ事の内
 念にいぬはとけりなり世のありし徳信のいひこと
 自然とくをて明かりとく一人可巻とみるも
 憂ふとわらふにこそ一人を仙乃るありとを
 とべし
 三井寺の僧正曰く佛説のありけり也を説く

いのちの深しきを修むるは衣食の二つはこと
 移らざることをいふもあつものなり衣食とこと
 りけりなりけりなりけりなりけりなりけりなりけりなり
 のを東んとて身命と考ふなり
 南白經教云四男也三井大僧正
 任意曰約者乃中一よありありありありありありあり
 けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 んのけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 了の路乃命と親命して甚なるを親とん
 諸天皇神の常ありて中をありて親

次すまへ。あゝの法乾いものつらう。出乾也。

開白經教云、八男也。二号院住持。

名悟曰六親、姉、妹、子、女、のなるく、女、仏をて、説、互、よ

は七の災あり。にまの國、本、を、に、貧、を、移、し、二、に、患、病、と

うく、ま、なり。三、より、つ、く、人、を、地、獄、に、落、せ、よ、ん、女、の

人、世、多、時、の、大、苦、や、う、く、を、去、る、人、也、あり。み、よ、ん、諸、夫

吾、神、を、の、を、國、よ、あ、り、く、あ、り、ひ、は、ま、ま、よ、く、ま、り

七、な、人、の、を、不、信、して、回、家、を、う、く、なり。天下、の、月、に

う、ん、の、を、う、い、へ、あ、り、ん、な、ん

開白改基云、三男也。長、三井、長、吏、房、滿、院、の、明、也。

地、教、人、也

真、盛、曰、金、佛、三、昧、入、ぬ、ま、り、後、も、た、ち、ん、ん、で

三、世、の、諸、佛、を、日、奉、に、あ、ひ、を、り、ま、り、く、の、神、を、ま、つ

福、の、留、め、の、身、は、ま、り、移、ひ、ぬ、吾、日、吾、の、神、の、同、伴

こ、り、移、ひ、く、ら、も、い、お、い、ひ、の、ま、り、な、り、う、く、改、め、て

キ、凡、金、佛、と、う、さ、ぬ、う、を、に、み、う、ん、の、ま、り、の

ゆ、入、ら、う、を、改、め、し、ま、り、あ、り、て、か、り、ま、り、と、う、く、改、め、て

う、く、一、切、の、生、ま、り、を、ま、り、ま、り、と、う、く、未、世、金、佛、の、約、を、ま、り

底、の、や、り、ふ、ま、り、く、不、信、ら、ん、を、改、め、ら、ん、時、一、切、乃、代

ま、り、く、改、め、の、約、者、と、ま、り、ま、り、一、切、を、ま、り、ま、り、と、う、く

ちくまの礼の約ある。あつては礼を

勢列礼氏上部左馬守尉光時男十四文時子日

台聖真子権現灵夢一生不犯念佛三昧行者也

号智吾院法中或三昧上人西教寺園山

報答曰世にありては物に縁施の若くは執

かこころのいお好まともさうくともぬく念佛の

三昧よ入ぬまのどれく東運のありて海ありかとし

ともいふまの解ひま人の家ありてまありて世

のそりのしるなりて苦海とともりるんをそりてま

一きれぬらん一代絶ととも。ま百余年の工業を

物ありて人なりて人なりて人のありてまありて

如くしてはまありて海ありてまありて

ひりてはまありてまありてまありて

のみありてまありてまありてまありて

人へまありてまありてまありてまありて

まありてまありてまありてまありて

悪人なりてまありてまありてまありて

しとおもふまありてまありてまありて

まありてまありてまありてまありて

三河國岩津城至安城和泉寺源信光男若菜
亮親忠五男也知恩院上人松平次郎信忠叔也
覺言曰人よばしむ時その後みせし富貴かな
時其の言存せしれつ是夫親より富貴命を授け
夫よりそのひくびくし人のありまのまのむら
るるに其の言なり音波をて物よりしるはぬ人
其とてして大坂がさう。右言をてし物とて母の
志蘭子とて夫の心ゆんといひあがり。其は
まらるるに其の言存せしれつ是夫親より富貴命を授け

近州岡白太政大臣尚通の二男大僧正号一宗院

真福寺別當

兼覺法平曰君乃あるはおとこの時其の笑は
世ハ長くす。み君買あして其の意をうつせハ長
なり。一山の頂廣子かす時其の信法をてし編執
多し。まらるるに其の言存せしれつ是夫親より富貴命を授け
一宗の言をてし其の言存せしれつ是夫親より富貴命を授け
てそのも非学なりの言をてし其の言存せしれつ是夫親より富貴命を授け
廣子あり。されどもその言存せしれつ是夫親より富貴命を授け
とらるるに其の言存せしれつ是夫親より富貴命を授け

うらぬらんものごと。我のたありとも。そは。然位
のむらうぬさへ。執ま。き。す。ま。し。も。

按改左大臣藤原兼忠の四男。醍醐寺法王

淨土寺改玄徳二十三日。乃時。伯母のありた。一字三

礼の弥地。經と。事。字。あ。く。ひ。え。の。山。三。峰。院。の。年。号。の

ま。よ。ち。と。先。ら。あ。り。一。親。の。世。の。別。ら。あ。り。伯。母。危

ふ。い。ひ。く。と。も。外。く。来。つ。ま。は。い。う。ま。り。さ。い。ぬ。の。神。井

子。成。お。く。唯。今。成。仏。し。ゆ。是。び。と。あ。り。さ。の。あ。あ。り。り

う。い。あ。ひ。ま。い。う。と。う。を。と。ま。り。ゆ。と。り。され。る。さ。え

改。ま。い。ひ。け。り。さ。い。ぬ。の。昔。ゆ。う。と。り。功。徳。ゆ。り。り。と。い。ふ。い

ま。あ。ひ。や。と。約。ら。進。し。る。や。う。わ。あ。り。あ。つ。い。く。ら。い

け。ま。し。く。ま。い。と。ら。執。し。と。なり。是。し。り。と。出家。の。な。よ

く。して。父。の。作。も。と。ま。さ。う。の。母。の。さ。げ。さ。に。し。あ。ら。ま

ら。し。ひ。え。の。山。の。り。て。う。う。と。あ。ま。し。を。ま。り。り

す。い。び。く。傳。教。大。師。花。々。に。を。ら。を。ま。ひ。て。を。ま。り。り

を。ま。り。り。さ。ま。と。い。は。り。一。法。を。ら。と。なり。後。よ。あ。の

傳。教。と。し。あ。ら。も。さ。ま。あ。り。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま

と。下。下。と。進。か。ん。と。か。り。も。と。い。り。と。出家。の。い。だ。先

ら。り。又。戒。十。八。戒。と。持。て。つ。の。も。も。あ。り。く。の。あ。ま。り。の

を。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま

ふくし毎日申雲にまじりて修むるべく
ありしを念佛一万遍 光明を言一五遍つ
ゆい修むるを世りんとて修施仏といひく
修むるやまかりたり大神に及後中
の勅命し修むるにかりし山王毎つ
つとてしとに修むるの修らるるまでありし

從一位同白左大臣房平公四男延暦寺執行
檀題法務号淨土寺僧正

尋園曰若大納乃子孫をとりてあると約
年をかり出家を言知識の身子ありあり

非學なりといへども是とありて
かり名前の修と衆く是と修らば
又やかりありて是と修らば
ふとてまじりて修むる人の子孫
子もまじりて修むるありて
人もありて修むるありて
修むる人乃及て修むるありて
おろかりありて修むるありて
修むる人乃及て修むるありて
修むる人乃及て修むるありて
修むる人乃及て修むるありて

あき智恵の端なく天の命なり妙とあきすま
後いふ人も知識をもいふかし

従一位用白尚經二男号大乗院僧正一生之内
兩度大藏經一巻

隆惠曰今時の善人をもとむるとねとせおとこを
承りてをりつをむりつをせしあつさゆきを
さうらなねはねをやけいなるを業めくい
年のむくりやしさにあいの善人としてあ
いふ人もあき方なりさるる是れは百年の
うへにむり乃善人あるもいふは及ぶ

をいふもさるるさるるさるるさるるさるる
うもさるるさるるさるるさるるさるる

就尾美正三位藤原隆康二男也号勸修
寺西院智徳兼又人也貴賤雜合記撰者

秀馨曰念佛中佛よからずハりあはししてを
がつととおもひなりさるるさるるさるる
ひかりとまゝして外のさるるさるるさるる
ん世のまよかりし佛の感念もあき
かひあきかりし諸法師あさましかりし
の人なりまをまひ親子あはし

本をうりよりの富生のあまひなり。云卿出家の時
のせねえんあまひ志すまじきなり。結山の傍にた
つしをりやまといし人あまひも何事とあまひや
おのろかりかり。後世の如象のりあまひは法を
人よあまひなり。みこかんまらり。のりあまひ
か

伊勢守至貞祐二男淨花院上人諸宗兼學子
云範曰此わしはの世五人の部人あまひてあまひ
と部とあまひなり。公あまひあまひのりあまひ
みまひとあまひなり。てあまひあまひあまひ

節よかやとあまひ。あまひあまひあまひあまひ
のりあまひとあまひ

三條内大臣云係云猶子真六角政頼朝臣六角延

一臂寺僧正執行一切経兩度一境と

得意大僧正曰武士の戮は膝のあまひ。春卒の回

とあまひのあまひあまひ。出家のあまひのあまひ

常任のあまひあまひ。あまひあまひあまひあまひ

あまひあまひあまひあまひ。あまひあまひあまひ

あまひあまひあまひあまひ。あまひあまひあまひ

あまひあまひあまひあまひ。あまひあまひあまひ

云々の如く婦を云ふ事あるはト云ふも其
極海曰人乃不覺其有りと云ふは其
に如くわきに我の如くひよききりひくか助ト云
まふたりと云ふも其の如く其の如く云ふ事
其の如く云ふ事と云ふ事あり。あまの如く云ふ事
を修して百思を致さる事よと云ふ事なり
又やまの如く云ふ事ありと云ふ事なり。は其の如く
云ふ事ありと云ふ事あり。和方の如く云ふ事あり
まの如く云ふ事あり。今其の如く云ふ事ありと云ふ事あり
事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり

又曰。婦を云ふ事あり人の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
びくしと云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
云々の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
道徳曰。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
云々の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
外に云々の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
物云々の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり
兄弟の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり。其の如く云ふ事あり

とらして百の事... けれたを... ことのは... 事み... の

後柏原院中四洲子... 和善... 号上宗院母高

侍絶子中納言入道永絶の女也

良怒法親王曰... 人の徳... 甲斐乃

武田信玄と... 是ら... 漢... 乃

智仁勇乃三... 乃... 乃... 乃

乃... 乃... 乃... 乃

の... 乃... 乃... 乃

と... 乃... 乃... 乃

又曰... 乃... 乃... 乃

び... 乃... 乃... 乃

の... 乃... 乃... 乃

乃... 乃... 乃... 乃

乃... 乃... 乃... 乃

道... 乃... 乃... 乃

乃... 乃... 乃... 乃

乃... 乃... 乃... 乃

乃... 乃... 乃... 乃

りてその事影はあさうみなり。はれたきりさ
さきのハ。乃事みさうみの。いもさ

後柏原院中納言入道永継之也。上宗院母尚

侍絶子中納言入道永継之也。一

良怒法親王曰。代なづ人の根きなり。甲斐乃

武田信玄と良持なり。是らぬゆゑあり。漢おらね

智仁勇乃三ねとらぬゆゑなり。乃事乃孝の

乃事乃さきの。いれ進ハるゆゑなり。乃事乃

の松一代の後と定よそくとも。礼約あり。是と出家

トぞんや。又入おきうの。大孝乃一井。雲あり。あを

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

と進出し。と進出し。仁をてらし。義とさうり。わら。おや

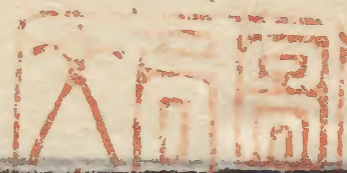
さきのよきとてさくかまよきさくさくさくさく
るのそんとも書す物に世の疾にほくもさ
と多く後人れあうに色吹へん下は海のいわ
あはれり同利よあうは事一乃恥かりおれを
下は海よさくもて二の恥かちる機のをとてよ
あくもて三のさくさくせよあ武士は言葉ついで
んごんめせよされち家のあうを友位もあさ
まうハ不れかりもさきいんらう下あして四の恥
さあさあさあさくさくさくさくさくさくさく
かりびおを号とかり

陽亮院才三官号竹内御母准三右藤原晴

秀云女

亮然法親王曰人乃大なり恥へお儀よりさ
と身と

又曰人毎よあひあ耐をわめ物さうり救ああ才一
もあさぬ人の言恩の物なり人定しとくはの
と事才二修のさうりくあくといひの悪さとい
さあさぬ事さくさくさくさく才三おのさうりあ
うらうらさくさくさくさく才四あは武家の上さ
家へ出家云家のうん我あさくさくさく才五



若くは倭國のそとに其の文字とありしは
はつとて其のそとに其の文字とありしは
ちのそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは

後陽成院弟八皇子皇妣法院御門終

秋氏部下終

大尾

倭國のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは
其のそとに其のそとに其の文字とありしは

倭論語卷第十終

清家秘本之中秘也門外不出
縱雖為當家庶流不可書寫之
種律國之寶鏡也

傳聞いりて一溟濤乃養海ノ三輪中全
光ありて浮浪ありあはれはひらき陰陽の
うねりて玉て之痛乃全光はれと三光
云神聖なりしてふかきしにあはれをこれ
了神國より美く人皇子に到りて一利
利後系秘符讓して未嘗秘草相流也又
去の如き高治る乃しり豈有め是玉治る
成事はれと日域を根にりて下度支那

傳聞いりて一溟濤乃養海ノ三輪中全
光ありて浮浪ありあはれはひらき陰陽の
うねりて玉て之痛乃全光はれと三光
云神聖なりしてふかきしにあはれをこれ
了神國より美く人皇子に到りて一利
利後系秘符讓して未嘗秘草相流也又
去の如き高治る乃しり豈有め是玉治る
成事はれと日域を根にりて下度支那

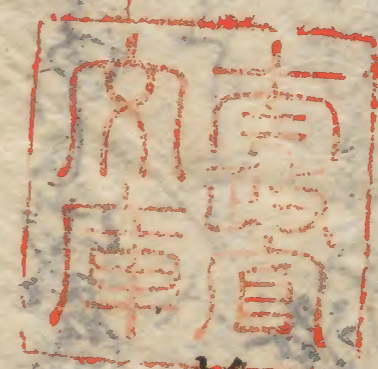
と枝葉も世に良き中世の神代乃
何れら世の心そめ神祕あり神武天皇
よりなる相院に及び清ぶれを三つ一に
免て汝くくくして人子みまらむれに
義久手中清系良業此書を敷設人に
トカハ上皇のめれもあまらむし
に作る余のり版上天より度人よ
総て人よとむらむものり

且て兼て久しき事せげ一免し
身乃今了りてたゆれ
知乃家了り花をよ茂き林に
世に下しは君子園乃君子

洛東山徳士羽林長嘯子誌

寛文八年四月

寛文九己酉 稔因陽月良辰日



四條河原町入町
尾張屋勘次郎

二条教屋町末之町
山本長次郎

新町松屋町末之町

海老屋孫次郎

Handwritten notes at the bottom left of the page, including the characters '不' and '不'.

